

大切な財産を守るために 地籍調査をはじめます

地籍調査の現場の様子(一筆調査編)

①調査開始時間よりかなり早く職員が到着し、準備を開始。用具を搭載している地籍調査号から、次々に運び出される調査用具。



②個別に調査員が持つ道具の他に、必要な道具は盛り沢山。杭打ちに使うハンマーや、既存杭を探す為のスコップ、杭位置確認用ポール、剪定はさみ、害虫除けスプレーなどなど。



山間部編

宅地周り編

③山間部の調査の場合は、境界点ごとの移動にも一苦労。普段は立ち入らない場所も、地籍調査で境界を正確に確認していく必要があります。



③境界点の位置を確認する作業。道路幅を公図幅で確保した後は、隣地との境界を確認(現地調査前に両地権者同士で確認できているとスムーズに進みます。)



④境界点に接している地権者全員で、境界点の確認をしている様子。地権者全員で間違いないと判断できた場所であれば、その点を確認し、杭を埋設します。



④道路幅を確保した上で、地権者同士がお互いに隣地との境界位置を決定できれば、その位置に杭を埋設します。(事前確認が済んでいる場合は、確認時に仮杭の埋設をお願いします)



境界杭



⑤地籍調査の結果埋設された杭の一例。左から、A：新たに埋設されたプラスチック杭、B：境界点上のコンクリートに接着した境界票、C：既存のコンクリート杭が使用可能だったので地籍調査の番号票のみを敷設したもの。これらの杭は、紛失などしても新たに役場の費用では埋設できないので、大切に管理していきましょう。

前回までは、地籍調査の仕組みや質問等についてお伝えしてきましたが、今回は宇都宮市で実際に行われている地籍調査(工程・一筆地調査)の様子を写真つきで掲載して、地権者の皆さんにご協力いただく過程について、実際の現場の雰囲気をお伝えしようと思います。

▼問い合わせ先＝都市建設課 地籍調査係 ☎69148